

# 図書館だより

令和3年6月18日号

## 図書館こぼれ話

館内では今『高校生直木賞』の展示を行っています。全校の高校生が集い、直近一年間の直木賞候補作の中から今年の一作として選んだのはどの作品か！展示で正解を確かめてください。



夏のような暑さが落ち着きを見せ、太陽が雲に隠れる時間が増えてきました。関東地方も梅雨入りが発表され、梅雨本番の季節です。「また雨か…」と思いながら過ごすのではなく、雨音を聞きながら読書の時間を楽しんでほしいです。さて、みなさんは三者面談を終え、学校生活や進路に対して自分がどう向き合っているかを改めて考えているのではないのでしょうか。図書館には職業に関する本や受験対策の本なども揃っています。3年生だけでなく、1、2年生も自分の将来を考えるのに図書館を活用してください。

## ●雨の日を楽しむ本

451-タ『雨の名前』 高橋 順子 || 文  
佐藤 秀明 || 写真 小学館

日本は雨が多いと言われています。そのため、雨にはたくさんの呼び名があります。「梅雨」もその中のひとつですね。そして梅雨にも「青梅雨」や「女梅雨」など色々な名前があります。雨の日が続くと憂鬱になる人もいると思いますが、今日降っている雨がなんと呼ばれる雨なのか考えてみると雨を楽しめるのではないのでしょうか。

913.6-シ『言の葉の庭』

新海 誠 || 著 KADOKAWA

雨の日の朝、孝雄は公園でその女と出会った。見覚えがある気もするが、誰なのか思い出せない謎の女。『また会うかもね。もしかしたら。雨が降ったら』女はそう言い、言葉どおり雨の日に二人は再会する。一人になりたかったのに顔を合わせる度、彼女に心を開いていることに気づく孝雄。彼らの物語はどう進んでいくのだろう。

## ●気になる新着本

B950-サ『サガン』

山口 路子 || 著 大和書房

『私は言葉が好きなのです。存在する言葉の9割は好きです』18歳で書いた『悲しみよ こんにちは』で作家として一躍有名となったフランソワーズ・サガン。彼女の残した言葉の数々は心に響き、新たな一歩を踏み出す勇気にもなります。

## ●6月と言えば“ジュンブライド”、花嫁の登場する本をご紹介します

913.6-ア『末ながく、お幸せに』

あさの あつこ || 著 小学館

結婚式の主役は新郎新婦ですが、この物語の主人公となるのは結婚式に招待されたゲストたちです。スピーチをする友人、乾杯の音頭をとる上司、家族やいとこがその人にしか語れない新郎新婦との思い出を持っています。ありきたりのお祝いの言葉ではなく、心からの気持ちがこめられた一言一言に涙がこらえきれなくなります。

913.6-ツ『本日は大安なり』

辻村 深月 || 著 角川書店

大安吉日の結婚式場「ホテル・アールマティ」では本日、4組の結婚式が行われる。しかし、ふたりの門出を祝う素晴らしい日になるはずが、思いもよらないアクシデントが立て続けに起こってしまう。花嫁の入れ替えが起きたり、花婿がとんでもない計画を練っていたり、もう大変。どのカップルも無事幸せになることができるのか。

913.6-ミ『エレジーは流れない』

三浦 しをん || 著 双葉社

三浦しをん3年ぶりの新作小説。怜には母が二人いるが、その理由を聞くタイミングを逃したまま高校生になってしまった。友人たちと賑やかに過ごしながらも進路を考えるとどちらの母の跡を継ぐべきなのかと悩みは尽きない。悩んで、迷って、遠慮して、色々な葛藤を乗り越え、家族の絆も友との絆も強くなる！

## ●司書の『今月はこの本を読みました』

B 913.6-ヤ『歪み真珠』(山尾 悠子 || 著 筑摩書房)はきっと好みに合うと思うからぜひ読んでください、読書会しましょうよと卒業生が連絡をくれました。山尾さんは2018年泉鏡花文学賞を『飛ぶ孔雀』で受賞された作家さんです。以前「天守物語」をおはなし会で取り扱ったり、「外科室」を素敵な作品と紹介したりしたので、そこからの思いつきなのでしょう。歪み真珠をポルトガル語で barroco といい、そこから16世紀末から18世紀前半に行われた芸術様式をバロックというそうです。建築でいうとヴェルサイユ宮殿やサンピエトロ大聖堂で、確かに行ってみたい場所です。幻想的で美しい短編15作を楽しめました。 【鈴木】